告辞

本日晴れて東京農工大学より学位を取得された皆さん、おめでとうございます。これまで影になり日向になり支えてこられたご家族の皆様を始めとする関係各位にも、心よりお祝い申し上げます。ここにこうして平成24年度卒業式・修了式を無事挙行する運びとなりましたことを、教職員一同大変嬉しく思っております。

本日学位を取得されたのは、農学部の学士が２名、工学部の学士が２名、工学府の修士が14名、博士が12名、農学府の修士が10名、生物システム応用科学府の修士が２名、博士が４名､連合農学研究科の博士が17名､論文博士が４名の計67名となっております。これら新たに学位記を手にされた皆さん、これまで様々な困難や苦労があったと思います。乗り越えてきたのはもちろん皆さんの努力があってこそで、私達も大変誇らしく思っておりますが、一方で自分一人の力ではなしえなかったことでもあるはずです。ご家族やご指導いただいた先生方などに対し、今日ここであらためて感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思います。

この晴れの日に皆さんへのはなむけとして贈りたい言葉、それは『守・破・離』です。戦国時代に茶道を極め茶聖と称された千利休による有名な言葉ですので、ご存知の方も多いかもしれません。これは､『規矩作法　守りつくして破るとも　離るるとても本を忘るな』という句から来ています。道を極めるには、まずお手本に従い根本的なルール、つまり規矩作法、を理解し厳しく忠実に守ること、次にそのルールを少しずつ破って自分なりの手法を開拓すること、そしてルールを離れて独自の世界を構築していくこと、こうした道筋をたどりながらも、決してその根本、初心、核となるものを忘れてはならない、それを忘れてしまっては真に道を極めることはできない、ということです。皆さんが本学で過ごしたこの数年間で得たものはこの『核』となるものです。これから皆さんが様々な進路へ進んでいくにあたり、本学で学び覚えた根本、科学者としての基本的姿勢、研究に真摯に取り組み困難を乗り越えていく粘り強い力、真理を追究する純粋な喜び、高い理想や志、それらを基として、最前線で活躍する人材として、企業や研究所など業種の枠を越え、分野の域を超え、国境を越え、活動の場を広げて飛躍していっていただきたい。皆さんご存知の通り、現在我々は環境やエネルギー問題をはじめとする多くの地球規模の危機的状況に直面しています。それら人類に投げかけられた地球存続の危機を救い、持続発展可能な社

会を実現するために、科学・技術の果たす役割はますます大きいものとなってきました。大学・大学院という最高学府で自らの知を磨いた皆さんは、今日から未来を託された科学・技術に携わる者として、自分なりの道で社会に貢献していただかなくてはなりません。対症療法のような単発で部分的な解決だけではなく、複雑に絡み合い作用し合っている諸問題を総合的にとらえた解決のため、何ものにも縛られず自由に創造し、あらゆる垣根を破って世界へ羽ばたいてください。私たちは、皆さんがその羽ばたく羽根を見つけ最大限に用いる力をつけるために、全力を注いで指導し、後押しし、サポートしてきました。だからこそ本日、自信を持って皆さんを新しい世界へ送り出すことができるのです。地球の未来を美しく豊かで輝かしいものにするため、皆さん一人一人が力強くそれぞれの道を邁進してくれると信じています。そして、そこで忘れてほしくないのが、これまで皆さんが本学で培ってきた『核』です。高い壁、多くの困難に阻まれても、それがあれば必ず道は開けます。

どのような道へ進んでも、科学・技術に携わる者としての潔癖さ、課題解決のための柔軟な思考、俯瞰的視野、そして熱意、これらを決して忘れることなく、時に立ち返りつつ、粘り強く道を極めて行っていただきたい。それが同じく道を極めるべく歩き続けている私達の皆さんへの願いです。皆さんの進路は様々ですが、各界でめざましい成果をあげておられる卒業生の先輩方に続き、どこへ行っても心身ともに健康で悔いのないようご活躍されることを心より祈念しております。そしてまた、今後も本学の更なる発展と後輩達のため、同窓会活動などを通じてご支援くださいますよう併せてお願い申し上げ、ここに告辞とさせていただきます。

平成 24 年 9 月 19 日

東京農工大学長　松永　是